

40歳からの介護知識 9

介護のためのステップ

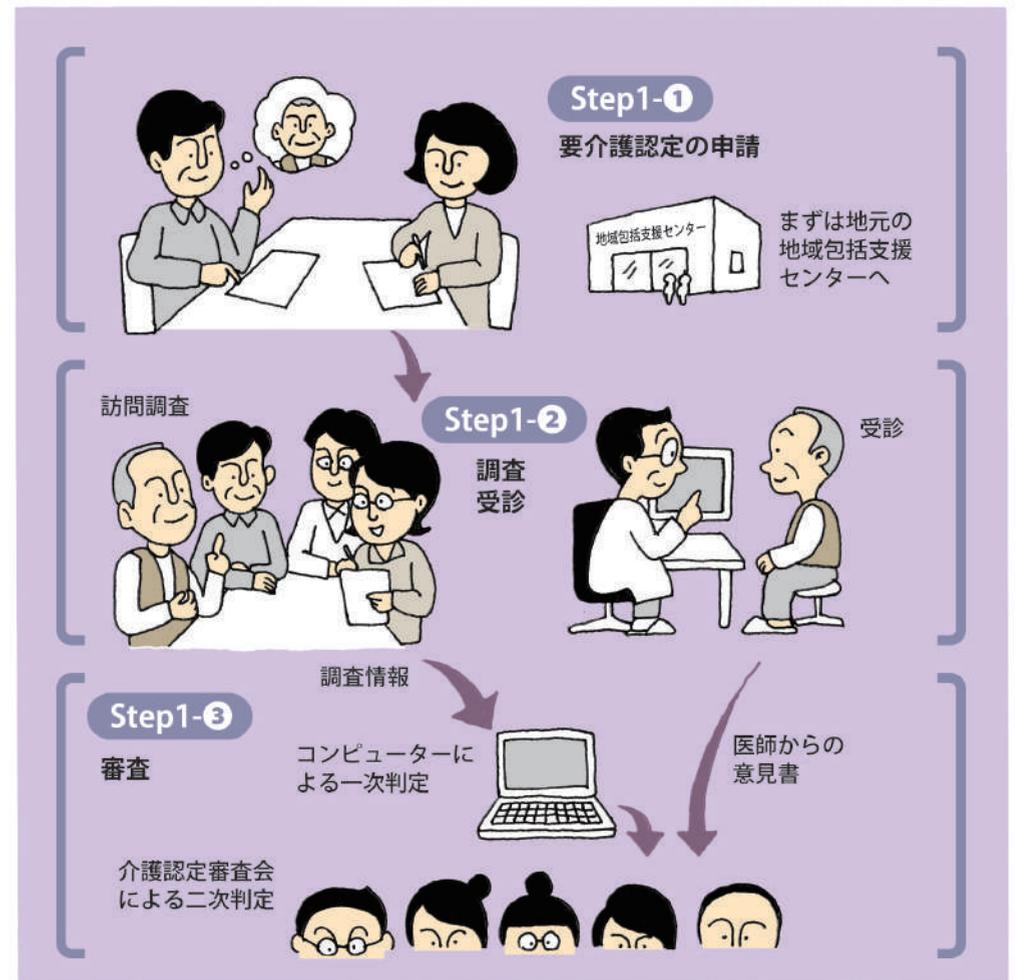
もしも自分の親に、介護が必要になったら？

ここでは介護保険を使うことを前提に、介護サービスを受けるまでの流れを見ていきます。

まず一口に「介護」といっても、どのくらいの手助けが必要なのか違ってきます。

そこで介護保険のなかで、「要介護度」という指標があるのでざっくり把握しておきましょう。

要介護度は、総合事業対象者、要支援 1～2、要介護 1～5 の 8 段階（「非該当（自立）」を含めると 9 段階）あり、これをもとに、利用できるサービスや給付の限度額が設定されています。



【Step-1】要介護認定を受ける

「介護保険証」があるからといって、さまざまな介護サービスが利用できるわけではありません。

介護が必要な状態であるかどうか、どの程度の介護が必要なのかを、

さまざまな介護専門家たちで調査、協議し、

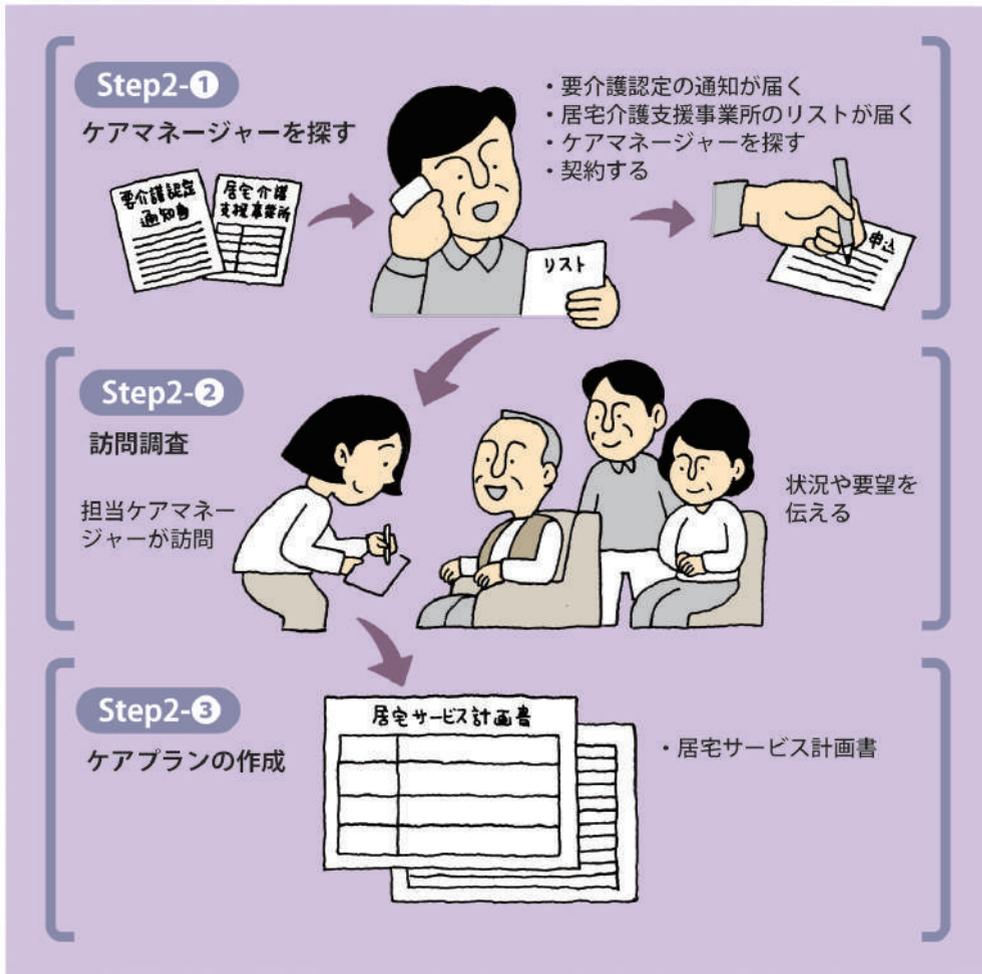
「介護が必要である（＝要介護認定）」と認められてから、サービスが受けられます。

そのため、まずはじめに行うことは「要介護認定の申請」手続きが必要です。[※]

これはお住まいの地域の「地域包括支援センター」で代行してくれますので、

はじめの介護の相談から、そこで関わってもらっておくとスムーズに進みます。

^{（※サービスはこの申請日より利用することができますが、介護度が出ない場合は実費となる場合があります。）}



【Step-2】ケアプランをつくってもらう

要介護認定申請をおこなってから、さまざまな調査や審査がおこなわれ、おおむね 30 日以内(原則)に、審査の結果通知が郵送されます。

「介護が必要な状態である」と認定されると同時に、お住まいの地域の「居宅介護支援事業所」の一覧が送られてきますので、その中から、ケアマネージャー(介護支援専門員)を選び、サービスの契約を結びます。

ケアマネージャーは「介護を必要とする人」と「介護サービス事業者」をつなぐ大切な役割です。入念にコミュニケーションしながら、各ご家庭の状況に合わせた介護生活のプランを立てます。



【Step-3】サービスを利用する

ケアマネージャーが作成したケアプランをもとに、サービスが実際に提供されます。

と、これで一見、介護生活が成立しそうですが、もしかすると実際のくらしと、介護サービスがなじまないことも考えられます。

たとえばこれまでの生活リズムと合わなかったり、ヘルパーさんと相性が悪かったり。そういうことを調整していくために、実際のサービスを提供しながら課題を抽出し、チェック項目に準じて内容を見直し、ベストなプランに改善していきます。

介護休業の 93 日間は、この期間を含めて考え、親の介護の「しくみ」を作っていきます。